シェアリングの可能性について

・市町村を跨ぐシェアリングについては、作業の突合や輸送賃、各農機メーカー拠点の
都合で整備などの作業で合理的ではない部分が散見された。
・集落単位では、作業の突合や輸送、整備の問題はかなり解決できるのではないかと思う
・20～40ha規模でシェアリングを行うと経済的にも効果が高いと思える。
※この規模感だと115馬力1台所有のケースが多く、もう1台欲しいが買えないケースをよく聞くので
・コンバインに関しては、コンタミの問題が大きく同一品種での利用が合理的
・事故の可能性が高くなるので車両保険は必須
・作業機に関しては作業委託として可能性があるものも
　〇ドローン、播種機、コンバイン

導入コストについて

ロボットトラクター、コンバイン…250万～400万程従来機より高い
施肥機…油圧開閉のみ100万、車速連動250万、セクションコントロール400万～600万
ブームスプレイヤー…車速連動400万、セクションコントロール600万
ドローン…250万から400万
ハウス設備…10棟管理で600万（自動潅水400万、自動開閉装置200万）

・高価なものであることには変わりがないが、労力の圧縮と操作する人を選ばなくなるので、
忙しくて出来なかった作業を従業員や子や妻に作業移譲ができることにより、
遅れ作業が無くなり収量や品質が向上し結果としてコストを上回る利益が期待できる
・節税対策としては、そこそこの効果はあると思う
・補助金の対象技術となりやすい

持続可能な農作業について

・精神的な効果について
ハウス野菜を手掛けると、責任者が週7で管理しないといけなくなるが、遠隔操作を行えることにより休暇が取りやすくなり心の平静を得られる
誰でも操作できることにより引継ぎが簡単になる。指示もしやすい。
誰よりも営農責任者の負担が減り、若手のやる気がでる。（イメージが良いらしい）

・物理的な効果について
8～9割方操作不要になるため、人員交代による長時間労働が可能になる。
システムの基本がトラブルがあると止まる仕様となっているので安全性は高い。
事故の軽減につながる。

今後の展望について

まだ、無人と言っても監視が必要なので、完全無人化に向けて技術開発を進めて欲しいと思います。
また、今後は農業機械だけではなく、拠点輸送についても
コストが上がっているので無人輸送の技術が実装され販売手数料コストについても合理化が進めば利益を出しやすくなるのではと思います。